

「海神プロテウス」

薪流会 総裁 大井際断



プロテウスは、海の老人で、力によるのであろう。

ボセイドンの従者、海の畜群、すなわちアザラシの番をする役である。古代ギリシャの詩人ホメロスは、彼の住居はナイル河口のパロス島であるとするが、又エーゲ海のクレタ島であるとも言われている。

プロテウスは身体をあらゆるものに変化させる力を持つ。正午に彼は海から出て岩陰で昼寝するが、彼から予言を得たいと思う者は、彼を捕らえて放さない、と。彼はあきらめて、もとの姿に戻り、未来を教える。昨年の東日本の大震と大津波も、プロテウスの変化

薪流会創立から二十周年を迎える今日、プロトイース薪流会として更に一段の発展と進歩とを期待して御挨拶と致したく存じ上げます。

未来を予言して。

大井際断

本部	〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町53 養徳院内 横江 桃園
発行	〒509-0301 岐阜県加茂郡川辺町下麻生1998 大雄寺内 大野 祥雲
編集	〒430-0838 静岡県浜松市南区鼠野町48 龍泉寺内 薬師寺 良晋
印刷	〒505-0021 岐阜県美濃加茂市森山町1-1-34 有限会社 永田印刷
薪流会ホームページ	http://www.shinryukai.jp/

「海神プロテウス」	総裁 大井際断	次
「心身一如」	鈴木 龍雲	…237
五百人デイキャンプ	…83	
今社会は正気か向	合孝	
撲滅	声楽家 村上 彩子	
東北震災復興支援活動	音楽法話「一期一会被災地へ	
総会報告・浜松支部	方言詩紹介 松尾静明	
僧堂紹介 方広僧堂	音楽法話「一期一会被災地へ	
義援金報告	合孝	
会計決算報告	声楽家 村上 彩子	
…23	…22	…21
…20	…18	…17
…16	…14	…12
…11		

「心身一如」

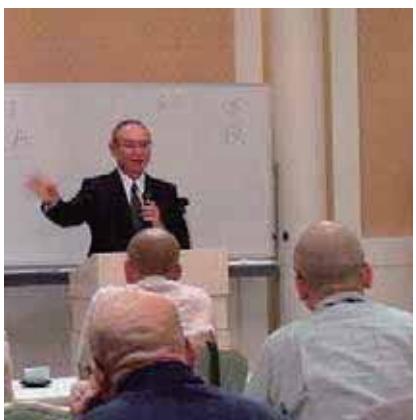
鈴木龍雲

◆人生を変えた一言

私は、京都市とは名ばかりの田舎の村で、檀家五十軒ほどの小さな寺の長男として生まれました。

父は、中学校の先生と僧侶の二足のわらじを履いていました。母は、在家から嫁いで来ました。祖父からは「電柱を見て頭を下げる」と言われ、結婚当初は寺の石段から下へは降りられなかつたそうです。しかし祖父が脳梗塞で倒れてからは、住職である父の代わりに檀家さんの家へ月参りに行つたりしていました。

祖父母は、物心つくころにはもう亡くなつており、私は、小学校に入ることから法要に出たり棚経に一緒につつたりして、檀家さんからは、「良い後継ぎ」と期待をかけられ、なんなく重圧感を感じながら少年時代を過ごしました。



中学生の時、私はお坊さんになるのが嫌になりました。それは同級生が私に言つた、こんな一言からでした。「坊さんはいいな、人が死んだら儲かるし。たぶん、私にそう言つた同級生には、何の悪気も無かつたのでしょう。また、お寺で生まれ育つた大勢の方々は、きっと同じような経験をされていることでしょう。でも、その一言は、私の心に深く突き刺さりました。大きさにいえば、その一言が私の人生を変えました。

猛勉強の甲斐あつて、京都大学医学部に合格することができました。合格発表の日、父が私にこんな言葉をかけてくれました。「医者は身体の病気を治す、僧侶は心の病気を治す。心と体は心身一如、決して切り離せないものだ。」と。

大学二年の夏休み、両親が結婚五周年を迎え、そろつて旅行に出かけました。帰る日の朝、母から「今から帰るからね、お土産買つたよ。」と電

父の本音はわかりませんでしたが、私は一念発起して猛勉強しました。おかげで、京都では有数の進学校へ入学することができました。そして、「坊さんはいいな、人が死んだら儲かるし。」という言葉が、私に「人を死なせない仕事をしよう。医者になろう。」と決心させたのです。

今思えば、初めて「死」に直面した出来事でした。同時に、私が外科の道に進むことを決定づけた出来事でもありました。顔も見たことのない「親戚」が大勢やつてきました。一人分の生命保険目当てだったのでしょう。寺を乗つ取ろうとする「坊さん」もたくさん現れました。最終的には、住職

資格を持つていなかったということを理由に、寺を



話がありました。お昼を過ぎたころ、再び電話が鳴りました。「もう京都まで帰ってきたかな」そう思いながら電話を取ると、それは警察からの電話でした。高速道路で交通事故に遭つたと思つていたのだと思います。「そんなに坊さんが嫌なら、国立大学にでも入つてみろ。」そう言されました。既に両親は亡くなつていました。そのことは、よく覚えていません。

追われました。人間の裏の顔を見た気がします。

世間の風は冷たく厳しいということ
も実感しました。大学二年の兄ちゃん
と、高校三年の妹では、世間は信用し
てくれません。人間は、誰かの世話に
ならなければ生きていけないこと、い
くら頑張つても、一人では生きていけ
ないんだということを、初めて知つた
のです。何とか父の弟に保証人になつ
てもらつて、アパートを借りることが
できました。

妹と一緒に一人だけの生活が始まりました。思えばアルバイト三昧の学生生活でした。生活費・私と妹と二人分の学費を稼ぐために、家庭教師・引越し・配達・パチンコ屋・献体された遺体のホールマリン漬け・バキュームカーの内側掃除……ありとあらゆるアルバイトをしました。それでも何とか無事に大学を卒業し、研修医として大学病院に勤務することになりました。

当時、大卒者の初任給の平均は十三万円ほどだったと思います。しかし、「研修医」としてスタートした大学病院での私の給料は、わずか六万円足らずでした。もちろん生活できません。仕方なく、またアルバイトに明け暮れ

る生活です。個人病院で当直をすると、一晩で一万五千円くれました。休日診療所は、一日八千円でした。平日は午前八時から午後五時まで大学病院で普通に勤務をし、当直アルバイトで朝まで勤務。週末には、必ず休日診療所のアルバイトに行きました。毎日フランフランでした。でも、そうしないとやつていけなかつたのです。

初めて担当した患者さんは、肺癌の転移で抗癌剤治療を受けておられました。抗癌剤の点滴用ルートは医師が取ることになつていますが、私はまだまだ経験も少なくそれほど上手くもない上に、血管が細く難しめの人でした。それなのに、いつも「今回は二回で入つたな。」「おつ！ やるやん！ 今日は一発やな。腕を上げたな。」「今日は三回目でも無理か調子悪い日もあるわな。気にするな、つき頑張つてな。」と、励まされていました。痛い思いをさせていたのに。

一応、三回失敗したら上の先生を呼びに行くようにしていましたが、ある日のこと三回失敗したときに「すみません、上の先生を呼んできます。」と謝り、呼びに行こうとしたら「あかん。鈴木先生が点滴してくれないのなら、点滴は無しにしてくれ。なんべん刺してもいいから、先生がやつてくれな点滴はせえへん。」結局、六回目にしてルートを取ることができました。「ほらできたらやろ。諦めて呼びに行つてたら鈴木先生が成長せえへんやろ。諦めたらあかん。」涙が出そうでした。

つた瞬間でした。その患者さんが亡くなつた日、トイレにこもつて泣きました。医師として新米のころ、目の前で患者さんが亡くなつていくことは、とても辛いことでした。だから、患者さんに出来るだけ感情移入しないように努めていました。でも月日が経つうちに、「死」というものに慣れてしまふのです。慣れないとやつていけなかつたのです。

京大病院で外科医としてしばらく勤務した後、アメリカへ留学することになりました。アメリカでは、医療に関して日本とは大きな違いがあ

日本の大学病院は、最高のレベルの治療を求めて患者さんが来られます。国立大学の付属病院ほどその傾向が強いですから、失敗は許されません。したがつて、研修医に治療をさせません。そうすると、研修医は医師として成長しません。大学病院の研修医は使いい物にならないと言われる所以です。

一方アメリカでは、大学病院は教育病院として成り立っています。医療保険の制約で、患者さんには医療機関を選ぶ自由がありません。その中で、大

学病院系列ならば低所得層も受け入れるのです。代わりに教育機関ですから、



研修医が実際に手技などさせてもらえる機会が多く、研修医は十分な教育が保証される代わりに、低賃金で働くことで病院運営に貢献しているのです。

◆国境なき医師団

カリフオルニア大学サンフランシスコ校で救命を、スタンフォード大学で心臓血管外科学を学び、約二年間をアメリカで過ごしました。留学もそろそろ終わりに近づいたころ、担当の教授から、ある募集の要項を手渡されました。それは、MSF(国境なき医師団)というNGOからの派遣要請でした。未知の土地で言葉の壁と闘いながら診療をすることに不安はありました。が、外科医としての腕を磨くチャンスだと思い、軽い気持ちで応募しました。しかし、決して軽い気持ちでは済まされないという事を、後に痛いほど知つたのです。

南アフリカ、ケープタウンからボロボロのトラックの荷台に乗つて、カーリチヤという地区へ入りましたが、まづはハ工の多さと臭いに閉口しました。

男性は三七・四%、レイプされた経験のある女性は二五・三%にも達します。高級ホテルの中ですら、従業員が鍵を開けて客室に侵入し女性旅行客をレイプするといった事件が起きていました。

HIVの陽性率は非常に高く、なんと国民の約四十五人に一人の割合でHIVに感染しているのです。エイズの蔓延によって、国民全体の平均寿命は四十歳以下という状況でした。HIV感染患者が爆発的に増加した八十年代、「処女とコンドームを使わずに性交をすれば完治できる」といった悪質なデマが流布し、まだ十代前半の黒人少女がHIV感染患者から強姦され感染するケースが多発していたのです。

日本やアメリカでは考えられない、貧困と暴力と感染症と闘いながら一年が過ぎていきました。

肉体的にも精神的にも限界の状態だったので、もう一年MSFとして働ける

当時、南アフリカといえば、凶悪犯罪と感染症の地でした。殺人は日本の百十倍。一日の強盗発生数は約三百五十件、しかも七割以上で拳銃が使用されています。強姦発生率は世界最悪で、日本の一百二十三倍。当時の南アフリカ政府調査によると、レイプ経験のある

かどうか自問しながら、休息のためにしばらく日本へ帰りました。ちょうどその時、阪神淡路大震災が起こりました。私は、その日のうちにバイクで神戸へと走りました。そして現地で支援活動をしている時、非難所での炊き出しにたびたびお世話になりました。豚汁やおでんなどが主流の中で、せんざいを振舞っているお坊さんたちに出会いました。それが薪火会の方々だったのです。縁というのは、不思議なものですね。

神戸での支援活動が一段落すると、今度はアフリカ大陸の南西部あたりのアンゴラという地に向きました。コングから軍用ヘリで現地入りしました。が、赤道が近いので大変な暑さです。そしてまたあの強烈な悪臭が襲いかかって来ました。

当時アンゴラ地区は紛争の真最中で、病院もなく医療テントの中で治療せざるを得ない状況でした。地雷で身体の一部が飛ばされてしまった人、銃撃された人、口ケット弾にやられた人など、いろんな人が毎日次々と運ばれてきました。テントまで運ばれる人はまだ幸運で、テントまで来られない患者さんも大勢いました。そんな時は、バイクで

自動小銃の弾やロケット弾が飛び交う中を、最小限の器具が入った救急バッグを持ってバイクで走りました。生まれて初めて、命の危機を感じました。現地では、初めての経験ばかりな上に、究極の選択の連続でした。

足を骨折して骨が皮を突き破つて飛び出てしまっている少年がいました。もう既に、感染症にかかり壊死が始まっています。命を助けるには、足を切断する以外に方法はありません。でも、そうすれば、彼は二度と走れなくなります。戦地で母親と巡り合つても、走つてその胸に飛び込めないので。この子の足を切断するのか?将来を奪ってしまうのか?どう治療するかを一瞬のうちに、しかも一人で判断しなければならない、そんな毎日でした。

日本やアメリカなら普通に助けられる命が、どんどん亡くなつていきました。医療テントの外には、助けられなかつた人たちの遺体が並べられていました。その列が、どんどん伸びていくのです。その遺体を見るたびに、「お前は、これだけの命を殺したんだ」と言われているようでした。でも、CTもMRもレントゲンもないテントの中では、患部の特定すらできません。医師として

の無力を実感しました。悔しい、苦しい毎日でした。

そして、ある時、重大なことに気がつきました。私は、それまで「たくさんの命を救ってきた」と思っていましたが、それは自分の力ではなかつたのです。なにもかも医療機器に頼つていたのです。自分には何の力もなかつたのです。最先端医療に携わっているというおごり、たくさんの命を救つてきたという錯覚とおごりから、いつの間にか私は、病気だけを見て、患者さんを見ていません。医者になり下がつていました。

M.S.F.に参加するまでは、「元気になつて退院していく患者さんの『ありがとう』」という言葉が勇みでした。しかし、M.S.F.に参加した後は、救えなかつた患者さんの顔や家族の顔ばかりが浮かんで、治療法は本当にあれで良かったのか?という後悔と自責の念で頭が一杯でした。帰国した後、病院に戻る気にはなれませんでした。

◆二足のわらじ

そして私は、坊さんの世界に逃げました。帰国後、病院には戻らず僧堂に安居しました。三十代も半ばになつて

いましたが、封建社会の僧堂の中では十以上年下の若僧にボロクソに怒鳴られる毎日でした。しかも宗門大学を卒業していないという理由で、かなり理不尽な扱いを受けました。

しかし私は、坐禅に救われました。今までの自分、自分のしてきたこと向き合う時間が持てました。坐禅をして、唯一の安らぎの時間だつたのです。

僧堂を下り、現在の寺に住職しました。同時に古巣の大学病院から、心臓血管外科の講師として呼ばされました。医師と僧侶、二足のわらじ生活が始まりました。病院に戻つて感じたことは、ほとんどの医師が、病気・カルテ・検査の数値だけを見ていて、患者さんを見ていません。以前はその一人でした。

本来医師は、患者さんを取り巻くいろいろな事情まで考えて、その上で最善の治療を考えるべきだと思いますし、私がそう考えられるようになつたのは、M.S.F.と「心身一如」という父の言葉のおかげだと思っています。

初産で妊娠二十九週、三十八歳の女性が入院してきました。重度の拡張型心筋症で、手術しないと余命一ヶ月という診断でした。でも、妊娠中の全身麻酔は非常に危険で、手術すればお腹の子供が死ぬかも知れません。難しい選択でした。以前の自分なら、迷わず手術していたと思います。子供はまた授かるかもしれないし、本人が死んで

しまつたら何にもならないからです。でも、その患者さんにとつてみたらどうなのでしょうか?年齢から考えても、子供は最後のチャンスかもしれません。その人に向かつて「子供は諦めなさい」と言えるでしょうか?「また頑張つたらいじやないですか」と言えるでしょうか?恐ろしいことに、医者は平気でそう言うのです。私も、以前はその一人でした。

本来医師は、患者さんを取り巻くいろいろな事情まで考えて、その上で最善の治療を考えるべきだと思いますし、私がそう考えられるようになつたのは、M.S.F.と「心身一如」という父の言葉のおかげだと思っています。

大学病院に戻つて十年が経とうとしている時、一つの事件が起きました。八歳の少年が交通事故に遭い、搬送されきました。到着した時には、すでに心肺停止の状態でした。すぐに入工呼吸器を装着しましたが、もう脳死状態に陥つており回復の見込みはありませんでした。呼吸器を外すと、確実に死に至ります。母親は、管と配線だけのわが子をベッドの横で見ていました。

主治医であつた若い医師は、将来を嘱望された優秀な外科医でした。彼が研修医の時、私が指導医だつたこともあつて、彼は私の考え方を受け継いで

しかない状態でした。病院としては、助かる見込みのない患者さんをいつも置いておくより、早くベッドを空けていたいという理由で、かなり理不尽な扱いを受けました。

呼吸器を外すには、家族の同意書が必要です。でも家族にとつて、それは「命を奪う」とことへの同意書なのです。もちろん母親は拒否しました。今朝元気いっぱい「いつてきます!」と出かけたわが子、その子が今、死の淵にいる:現実が受け入れられない状態でした。

主治医である若い医師が懸命に説明をし、母親は、たとえ呼吸器をつけていても数日で心停止することを納得しました。そして、無駄な延命治療をするよりも、まだぬくもりが残つている間にせめて抱きしめたいと願いました。その若い医師は、同意書のないまま呼吸器を外し、母親に子どもを抱きしめさせてあげました。その子は、母親の腕の中で亡くなつていきました。母親は感謝の言葉を述べ、病院を後にしたのです。しかし後日、医療過誤ということで訴訟になりました。

くれ、患者さんのQOL(クオリティーオブライフ)を第一に考えられる医師でした。

その彼が医師生命を断たれることは、私にとって堪えがたいことでした。彼が呼吸器を外す際に、その行為を止めなかつたという理由で、私の管理責任も問わされることになりました。私は、自分が責任を取つて病院を辞めることで、彼の処分を軽減してくれるよう嘆願し、結果そなりました。病院としては、四十代も半ばを過ぎ、心臓外科医としては体力・視力ともに下り坂ながらどれだけ葬儀社に返すかという事なんですね…そうして葬儀を紹介してもらう坊さん。葬儀と僧侶の実態を見た気がしました。癪着・バックマージン・小遣い・接待…これでは僧侶は舐められて、葬儀社に仕切られても仕方ないと思います。

こうして私は、二十年間の医師生活にピリオドを打ち、僧侶一本で生きることを決めました。

◆「ステキなお坊さん」

二足のわらじ時代も含めて、僧侶の実態を見てびっくりしたことがたくさんあります。

初めての葬儀の時のことです。葬儀社の人から「先生」と呼ばれて、まずびっくりしました。なぜ私が医師だと知っているのか?非常に疑問でした。

後でわかつたことですが、葬儀社は、僧侶のことを先生と呼ぶんですね。

「先生、またお願ひします。お忙しいと思うので通夜枕でも大丈夫ですよ。条件はどうしますか?全返し?それとも全返しですか?全返しの方が、たくさんお声をかけられると思いますが。」何のことか、さっぱり解りませんでした。通夜枕というのは、枕経と通夜を一度にやつしてしまう事なんですね。半返し・全返しというのは、お布施の中からどれだけ葬儀社に返すかという事なんですね…そうして葬儀を紹介してもらう坊さん。葬儀と僧侶の実態を見た気がしました。癪着・バックマージン・小遣い・接待…これでは僧侶は舐められて、葬儀社に仕切られても仕方ないと思います。

私は、宗門太学を出て本山で修行した人たちは、凄いんだろうなと思っていました。その人たちに負けないくらい勉強しなければと思っていました。でも、その人たちと接するうちに、彼らはまったく勉強していないということに気がつきました。それは学問だけではなく、経験も含めてです。葬儀作法の意味も知らない坊さんの、なんと多いことでしょう。しかも厄介なこと

に、坊さんは「自分は偉い」と勘違いしています。それは寺の大きさなのか?檀家の多さなのか?それとも収入の多さなのでしょうか?若い時から「若先生」などとてはやされ、上座に据えられても、それは自分が偉いからだ、と思っているのです。はたしてそのなですか?先人の努力の上に乗つかつてあるだけではないのですか?

ひと昔前まで、確立された檀家制度のもとで、寺院は地域の中心的役割を果たし、その公益性を發揮して社会に貢献してきました。僧侶と言えば周囲から一目置かれ、誰からも尊敬される存在でした。しかし今、寺院・僧侶の置かれてる環境は、日を追うごとに厳しくなってきてます。葬式仏教と揶揄されるようになつてもう何年も経ちますが、それを否定せず反論しないのも、また僧侶です。「葬儀社が葬儀をめちゃくちゃにした」という嘆きの声をよく耳にしますが、それは本当に葬儀社だけの責任なのでしょうか?葬儀を簡略化しセレモニー化するという理由で葬儀社を批判する反面、それに迎合し、それを良しとしてきたのは、私たち僧侶ではないでしょうか?

のように出版されていますし、インターネットで検索すれば、



仏教の勉強など容易にできます。仏教に興味を持つて研究されている一般の方々も、数多くおられます。それに比べて、多くの僧侶はどうでしよう?正しいことは正しい、間違つていることは間違いだとキッパリ言えるだけの、知識と自信を持っているでしょうか?

それどころか、法事の際、お経の途中であるにもかかわらず平気で携帯に出るとか、法話はせず、話すのは金のことばかりだとか、僧侶としての常識を疑うような苦情を聞くこともあります。

葬儀に関して言えば、いま葬儀に臨む遺族の背景を考えたことがあるのでしょうか?それを知ろうとした

先ほどまでいろんな患者さんの話をしきましたが、みんなそれぞれに闘病生活の中で、お金の問題、気持ちの問題などいろんなことがあつただろうと思います。ギリギリまでがんばつて、今日の葬儀を迎えるわけです。あるいは突然の死で、何をどうしていいかわからぬ状態かもしません。そんな

中で最後のお別れをするのです。治療費に莫大なお金がかかり、わずかな蓄えの中から精一杯のお布施を包んで来られたのかもしれません。それをバックマージン…それでいいのですか？人生最後の儀式に携わっていふじうプライドはないのですか？生活していくには仕方ないとの反論もあると思います。しかし、それと引き換えて宗教者としてのプライドは捨てるのですか？もしそうなら、葬儀・法事はビジネスであると言えるでしょう。「布施」という名を借りたビジネスです。宗教法人への課税をされても反論できないと思います。死者を弔う儀式は、遺族に安心を与える儀式でもあります。残された遺族にこそ、宗教が必要であると思います。それを理解して、実践しているでしょうか？ビジネスではないと胸を張つて言えるだけのことをしているでしょうか？

僧侶は宗教のプロであるべきだと思います。プロという言葉はprofessional（職業人）を縮めたものですが、これはProfessorが語源です。Professorとは、高度な専門知識を身に付けた上で、神と同業者の前で職務への責任を負うという誓いを

なった者ことで、最初は医師・法律家・聖職者のみを指しました。一般人が持っていない知識や技能を持つているがゆえの、厳しい倫理性が課されるべきものなのです。その「倫理」が、いすれにしても、僧侶としてできることが、僧侶にしかできないことがたくさんあります。遺族を苦しめる様々な慣習・慣例の変化を促進し、遺族の負担を減らしていけるのは宗教者だけなのでしょうか。

私は、今の僧侶に欠けているものは想像力ではないかと思っています。苦しみに立ち向かい、それに打ち勝つた経験は、自信と想像力を生みます。悲しい経験をしたら人に優しくなる、

ハラハラする親の気持ちが想像できな人です。電車の中で大声でしゃべるになつてゐるかが想像できない人です。日本の僧侶たちはどうですか？高級外車を乗り回し、高級クラブを集団で飲み歩く…周囲の人たちが、どんな目でみているかを想像したことあるでしょうか？

マザー・テレサが日本に来られた時のエピソードです。

飛行機を降りて空港を歩いてくるマザー・テレサは、ほとんど裸足に近いような、サンダル履きでした。ホテルの記者会見場に現れたマザー・テレサも、同じ履物でした。

記者会見が済んだ後に、記者の中のひとりが、「日本の道路には、金属の破片やガラスのかけらなどが落ちていて、足を怪我されることが多ですから、外に出られる時には運動靴のようなもの履いてお出かけください。」と声をかけました。記者の気遣いがマザ！テレサには分かりますから、最初に「ありがとうございました」とおっしゃいました。でも、それがどうことおっしゃいました。でも、その後に続けて「いま私がインドで

過日、テレビの番組で花園大学の佐々木閑教授が「仏教は心の病院である」とおっしゃいました。私の父は「心身一如」と言つてくれました。医師から僧侶へ、世間から見れば全く違う道へと転向した私ですが、医師としての経験から得たものを無駄にせず、「ステキなお坊さん」と呼ばれるようになりたいと思つています。

*鈴木龍雲師プロフィール

京都の田舎の山寺に生まれる。

京都大学医学部卒業後、同大学付属病院救急科に勤務。

アメリカ留学中、国境なき医師団に参加。

帰国後、京都大学医学部付属病院心臓血管外科に勤務。

同時に僧侶の道に入る。

5年前に病院勤務を辞め、現在は僧侶として生

履いたら、済えなくなる。」とおっしゃつたのです。

インドと日本は、遠く離れているがゆえの、厳しい倫理性が課されるべきものなのです。

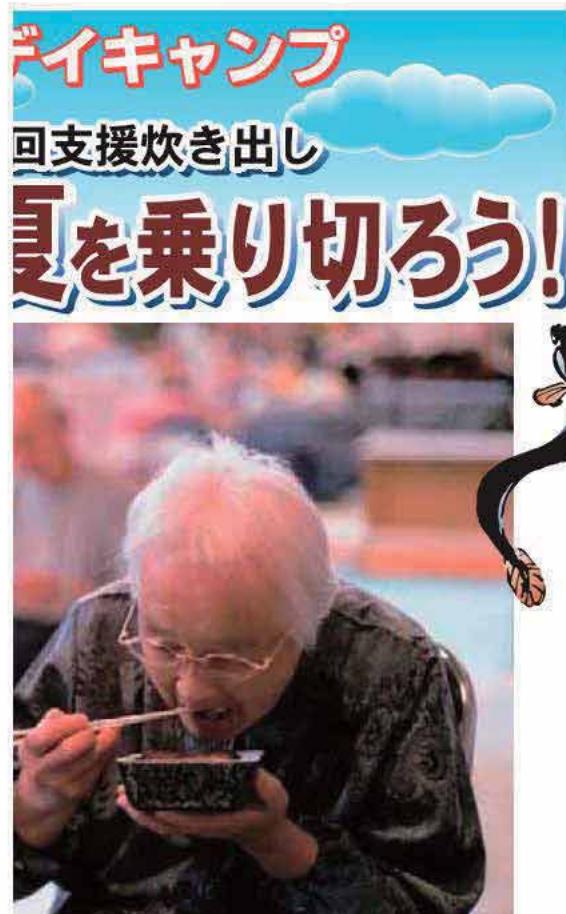
だから別にいいんじゃない？と、言い

たくないのですが、彼女の心はそうで

しまつたら済えなくなる。それは、

人を済うためには、私が靴を履いて

しまうためには、私が靴を履いて



です。

本プロジェクトの趣旨

今回は、浜松市浜北区平口の有限公司社うなぎの井口様に食材（鰻蒲焼き）の協賛をお願いしました。プロジェクトの趣旨は、次の通りです。

新流会では、東日本大震災第三回支援炊き出し『浜松うなぎで夏を乗り切ろう－プロジェクト』を七月十八日から七月二十二日にかけて宮城県気仙沼市へ出向いて活動して参りました。以下は、その活動報告です。

新流会では、東日本大震災第三回支援炊き出し『浜松うなぎで夏を乗り切ろう－プロジェクト』を七月十八日から七月二十二日にかけて宮城県気仙沼市へ出向いて活動して参りました。以下は、その活動報告です。

万葉の昔より夏バテにはうなぎが定番でした。新流会総裁のお膝元浜松の名物はうなぎです。

今年の土用の丑の日は七月二十日となりますが、ぜひ夏バテ予防のうなぎを召し上がって頂き、ささやかな心と体の栄養補給となれば幸甚と存じます。

京都支部：一名の計十六名です。本部：三名、浜松支部：十二名、

うな重は、現地の各避難所にて炊飯し、蒲焼うなぎを特製タレとともに温めて、盛り付けします。

食材のうなぎ蒲焼きは一匹ずつ真空パックして冷凍されたものの千食分を、事前に気仙沼近在の宅急便業者さんの冷蔵倉庫へ送り届けて頂いてあり、これを炊き出し実

新緑の季節も過ぎ、被災地にも

夏が訪れようとしています。例年とは異なる夏を乗り切って頑張ったために私たちは気持ちばかりの夏バ

テ予防のお食事を準備させて頂こうと計画を立てています。

今回の炊き出しは、七月二十日（水）、二十一日（木）に昼食と夕食の時間帯に行うもので、実施回数は四回。「うな重」を両日合計で千食（一食に二百～二百五十食×四回）ご提供します。炊き出しの会場については気仙沼市の社会福祉協議会の御指示によつて選定されました。

炊き出しボランティアの参加者は、

「石麻呂に／吾物申す／夏瘦せに／よしと云ふ物ぞ／うなぎ取り召せ」（大伴家持『万葉集』卷十六）

今回の炊き出しは、七月二十日（水）、二十一日（木）に昼食と夕食

の時間帯に行うもので、実施回数は四回。「うな重」を両日合計で千食（一食に二百～二百五十食×四回）

ご提供します。炊き出しの会場につ

いては気仙沼市の社会福祉協議会の御指示によつて選定されました。

炊き出しボランティアの参加者は、

「石麻呂に／吾物申す／夏瘦せに／よしと云ふ物ぞ／うなぎ取り召せ」（大伴家持『万葉集』卷十六）

フリーダイヤル 0120-86-2779

仏壇・位牌・寺院用具・仏教美術品

ぬしや仏具店



浜松市浜北区貴布祿504-7 <http://nushiya-world.com>

ぬしや工房

お仏壇・ご本尊・仏具・家具調度品の修復
[www.nushiya-kobo.com](http://nushiya-kobo.com)

施日に、必要な数量を取りに行く
ということにし、蒲焼きとしての
品質や味と鮮度を保てるよう配慮
済みです。

うなぎ炊き出しプロジェクト

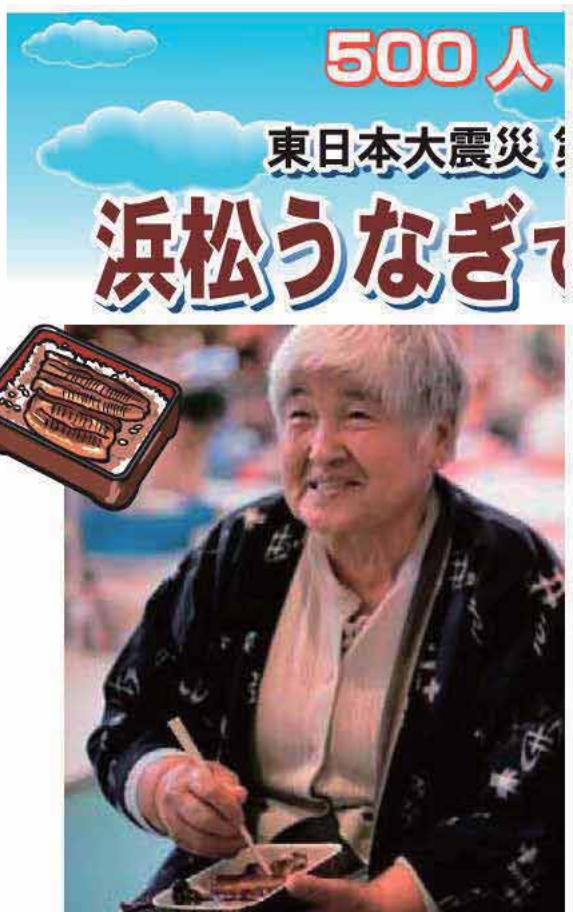
浜松隊は、七月十八日(月)午後

四時に浜松市東区の甘露寺さんへ
集合。準備事項の点検、炊飯用の
ガス釜、鍋などの洗い物をかた付
け、二トントラックに機材積みこ
み。洗い物用の水収納用ポリタン
クの積み込みに少々手間取りまし
たが、午後六時半頃甘露寺出発。

車二台で浜松インターチェンジか
ら東名高速→首都高速→東北道経
由で一関市にある弊会の拠点薪流
村へ向かいました。翌七月十九日
(火)の午前七時半に薪流村着。

各参加者それぞれの荷物をクル
マから積みおろし、施設内外清掃。
終了後、初めての参加者も含め才
リエンテーション。

メンバーの内、三名は氣仙沼
市の社会福祉協議会へ翌日以降の
炊き出し打ち合わせ及び現地下見
へ。残りのメンバーは、割り箸と



山椒小袋を箸袋へセットする作業
を行いました。

*七月二十日(水)

朝七時半、薪流村を出発し、昼の
部炊き出し会場の気仙沼市元吉町
三島の大谷公民館へ。此處では二
七〇食のうな重をご提供します。



禅の妙相

大本山妙心寺・臨済宗各御本山御用達

御袈裟法衣



莊嚴仏具調進司

後藤新助法衣仏具店

妙心寺門前

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表) 075-462-3915/FAX 075-462-3616
URL <http://www.rinzai.jp>

駐車場完備

十一時から調理開始。十一時半から配布予定でしたが、少し早めに開始。すぐに長蛇の列ができてしましました。

ここで、トラブル発生。炊飯器で炊くお米の量が多すぎたのか？水が少なかつたのか？炊きあがつたご飯に芯がある!!急遽、もう一釜を炊いて急場を凌ぎ、事なきを得ました。

この日、スタッフの昼食は、芯のあるご飯にコンビニのお総菜。スタッフの一部から「ゴッチン飯」食べるなんて、キャンプの飯盒炊爨で失敗したとき以来・何年ぶりだろう…』という呟きが…。

片付け後、午後の部の炊き出し会場へ移動。気仙沼市の吉本町にある小原木中学校へ午後二時着。こちらの体育館の避難所にいらっしゃる八十名の方々と近在の小原木小学校敷地内仮設住宅にお住ま

いの七十五名の方々、計五一〇食のご提供。

ここには体育館隣にブレハブの調理場があり、この設備をお借りしての作業。午前中とは格段に作業環境が良いです。午前の部の教訓？を生かして、炊き出し作業もスムーズに運びました。

出来上がったうな重は、ま

ず午後五時に小原木小学校敷

地内仮設住宅へ車で届け、体育馆避難所には五時半、「デザートの西瓜と共に皆さんへ配られました。被災者の方々の、うな重を召し上がる老若男女の顔、

顔…。

ひとことに尽きます。この日のスタッフ夕食は、うな重。筆者は、出発一週間前に試作品のうな重を

味見したのですが、現地で食べた方が格段に美味しかったように感じました。

やはり、TPOで料理の味って変わるものですね。



社会貢献型葬祭業

清香苑
UNION

県下初 国際規格「ISO9001」(葬祭サービス)を取得! 少しあな人生を創造する

清香苑ユニオンホール

日本ライン

可児市今渡1482-8

まほら

可児市広見1012-1

西可児

可児市坂戸934-3

きずな

可児市広見2565-6

おぶつだんの清香苑

可児市広見1664(パロー広見店西)

365日24時間受付 **0120-62-3171**

*七月二十一日(木)

の一関市の旧津谷川小学校へ。こ
した。

炊き出しの部会場は気仙沼市吉
本町の小泉中学校。こちらの体育
館の避難所にいらっしゃる七十名
の方々と同敷地内の仮設住宅にお
住まいの二百名の方々へ合計二七

〇食の炊き出し。ここでは、既設
のテントや屋外の調理場をお借り
することが出来ました。炊き出し
作業も前日の段取り通り進行し、
順調。

昼食後、午後の部炊き出し会場
○食の炊き出し。ここでは、既設
のテントや屋外の調理場をお借り
することが出来ました。炊き出し
作業も前日の段取り通り進行し、
順調。

こちらでは調理場をお借りして
の炊き出しとなりました。到着す
ると、真っ先に出迎えてくれたの
は柴犬君。スタッフ有志は、作業
開始まで時間があつたので、しば
し柴犬君とのふれあいを楽しみま
し

皆さんが、うなぎのぼりになつて
こちらの席から「美味しい！」
と言う声が聞こえ、食堂
全体が笑顔に包まれてい
ました。

七月二十二日(金)午前
六時に起床。新流村の各
部屋を清掃し、一関市を
あとにしました。



静岡新聞掲載

七月二十二日(金)午前
六時に起床。新流村の各
部屋を清掃し、一関市を
あとにしました。

今回参加の皆さん、お

利 諸瓦 各宗社寺御用達
創業明治三五年
株式会社坪井利三郎商店
社寺営繕事業部
名古屋市中区栄五丁目二二番七号
TEL(052)241-1092

永代普請

大切な御力いつまでも
安心してお使いいただくために。
大切な御坊

信頼の拠り所として建立された
被災者の皆さんへお配りしてから
にお住まいの百名の方々、気仙沼
の新月中学校体育館避難所にお住
まいの五十名、計一九〇食の提供。

これは、ボランティア団体から
炊き出しを頂いた際に、様々な苦
心苦労に感謝する気持ちを、避難
所の皆さん全員で表すというもの
だそうです。

今ある木造建築のよさを残しつ
つ、これからも何代にも渡つて
安心してお使いいただるために
も、適切なメンテナンスをお考
えください

今の社会は正気か



向 令 孝

五百人ディキャンプ・希望の光コンサートに参加し、被災地の皆さんと一緒にバーベキューをしながらお話をし、一期一会の若手僧侶のメンバーとソプラノ歌手・村上彩子さんのライブを楽しめていただきました。このような企画を立案し、諸準備をされた会長をはじめ実行部隊の皆さんに心より敬意を表します。

今回特に印象的だったのは、新流会を代表して被災地の皆さんに挨拶された名誉会長の次の言葉でした。

「こちらに来る前に被災地の現場を見てまいりました。これは、個人

や地方の力だけで復興できるものではありません。国そのものが現地に大きくかかわり援助しなければなりません。我々は政府に対し

て徴税権を与えておるわけですが、ずっと長い間税金を払つてきていたります。そして皆さんは、こ

私もまったく同感です。

このように、目の前の現実が理不尽であり問題があつても柔順に受け入れ耐え忍ぶ性向は、東北地方に限らず日本人全体に共通してみられる一つの美德とも考えられてきました。しかし、あるがままでした。

この現状を受け入れ耐え忍ぶ受容性とともに、現状の問題を指摘し糾弾し改善を促しつつ自分たちで生きることは自分たちでする主体性・積極性も、健全な民主主義社会を形成する市民としての大重要な要件です。

このように、物事に對して主

薄であるようです。

ブッダが「自らを灯とし、法を灯とせよ」と説き、臨済が「行かんと要せば即ち行き、坐さんと要せば即ち坐せよ」と言つたよう

自主独立の精神を高らかにうたうものです。

日本は十四世紀の南北朝の動乱期と同じような大きな転換期を迎えていると言われます。

その歴史の転換が、より健全な日本の社会の再構築となるためには、人の命を何よりも大切に思う、生活に根ざした草の根からの民衆の自主独立の生産的構えと働きが求められます。仏教・禅の自由な主体性の精神は、その基盤となるはずです。

仏教者として、過去の戦争責任を反省することも大切ですが、今の目前の現実社会において、命の安全が脅かされ、健全な人間が育たず疎外されるような要因や傾向があれば、その流れに抗し転換していくよう働きかけすることは「衆生済度」の実践ともなります。

「白雲自ずから去来す」と禅語に

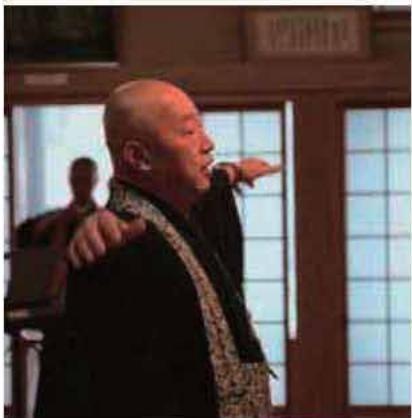
寺院仏具(各種記念品)制作・販売

有限会社 天眞堂

中央社寺工藝社

〒451-0031 名古屋市西区城西1丁目10番21号
TEL (052) 532-0607
FAX (052) 532-0608

※軸表装、頂相、天井絵、古軸修理、仏像修理など受け承ります。



せ随順することが悟境とされてきました。

しかし、そこで体感される大いなる流れは、天地いっぱいの無の境地におけるものであつて、人間の諸欲や善惡の意思が總体として働いている現実社会の混濁した流れに追随することではありません。

僧侶の在家・出家という現実社会から遊離しがちな分別、「白雲自由から去来す」といった自然主義的傾向、檀家制度という囲いこまれた生活保障の制度が「衆生無辺誓願度」と唱えながらも衆生の現実社会の問題や病理に正面から向き合い救済の手を差し伸べることをおろそかにしてきたと感じています。

いつの世でも、その国家・社会が正気であり健全であるとは限りません。

ません。

この十数年間毎年三万人以上の人

の国家・社会の在り方はどうでしょくか?。

が自死しています。うつ病等の精神疾患も年々増え続けています。

今の日本社会が正気でなく、どこか狂っていることは確かです。

どこが狂っているのか?。

その病理を的確に把握して述べるだけの力量は私にはありませんが、

ここではシンプルに「仏教の理想とする生き方」を基準に考えてみることにします。

思いつくままに述べてみますと、

アヒンサー(不害・不殺生)

何よりも個々の命を大切にして害さない。

慈愛

個々の命を害さないばかりか、慈しみと愛をもつて育もうとする心。

智慧

自我の利欲を離れて、物事を公正に判断する知性。

自主独立の生産的・創造的生活方 自然の摂理に随順し、人間の分をわきまえ、一滴の水をも大切に生かす知足の生き方。

こうした仏教の理想とする生き方を基準に考えたとき、今の日本

の国家・社会の在り方はどうでしょくか?。

未曾有の国難と言うべき、東北大震災に対して、国や社会全體がもつと総力をあげて救済に乗り出すべきです。人の命や生活を守らずして何の民主主義国家でしょうか。

国民全體が、慈愛の利他の精神において連帶できる好機でもあるはずです。

自然の摂理に反して、子孫に負の遺産をのこす原子力発電は早々に廃止の方に向に転換すべきです。そうした将来にわたるエネルギー大綱もないまま、政府は原子力発電を見切り発車させようとしています。利欲を離れて公正に日本のあるべき方向を示すことのできない、今の大國のリーダーたちの智慧のなき胆力のなきはあきれるばかりです。

大きな転換期にあって、日本をより健全な正気の社会へ再構築していくのは、地方分権の推進と自主独立の草の根の民の声と力であるでしょう。

「衆生無辺誓願度」が空念仏に終わらないよう、できることから実践していきたいと思います。

寺院莊嚴具・仏像・仏具・仏壇
位牌調製 製造販売
妙心寺派寺院御用達

真心で創る



株式会社

竹内佛具店

ねもと店
〒507-0078

岐阜県多治見市高根町3-75-2(旧248号沿い)
TEL<0572>27-2204
FAX<0572>27-2204

ショールーム
〒507-0833

岐阜県多治見市広小路3-28
TEL<0572>23-8746
FAX<0572>24-1008

安らかであれ。そう祈り歌わせて頂きました。

遥か彼方を見つめるような面持ちで聴かれる方、目を瞑り聴かれる方。大勢の皆様が涙され、コンサート後は堰を切ったように、様々な思いを私に話しかけられました。

十二日慈恩寺様での大勢の和尚様方の献身的な姿やご奉仕の業を拝見し、宗教、芸術は、同じ高い山の頂を目指し、各々の道から長き年月日々鍛練し、求めるものかと。

「初めて親族以外にメールします。寄り添つてもらえるだけで嬉しい」と感謝のメールも頂きました。繋がる誰かを辿れば、悲しみを抱えていない方はいない。もつと早く此処へ来るべきだったと、

被災地で生と死や無常を感じたからこそ、今を精一杯鮮やかに生きたいとの願いは、私の中で更に強固になりました。

今回の想いを咀嚼し、音

樂家として自身

の血肉に変え、今後

も被災地へ関わって参ります。

臨済宗妙心寺派様、薪流会様、今回貴重な機会を頂き、深く感謝致します。

春とはいえ、寒さ残る東北で薪も被災地へ関わって参ります。

薪流会長の大野博雅和尚様始め大勢の和尚様の温かいお心遣いに優しくお守り頂き、歌えましたこと心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。



各大本山御用達

たち兵
老舗

草木兵助法衣店

〒604-0024 京都市中京区衣棚通御池上る下妙覚寺町

京都(075) TEL 221-0934(代表)

FAX 241-0773

音楽法話
バンド 「一期一會」

被災地へ

水野 宏泰

寂しそうな姿。ポツンと一人ぼっち。しかし、何か私達に話かけているかの様でした。「松樹千年の翠」この禅語がふと頭をよぎりました。

私達一期一會は、臨済宗妙心寺派僧侶五名で結成された音楽法話バンドとして全国各地でコンサートを開催させて頂いています。

この度、新流会大野会長様に有り難きご縁を頂きまして陸前高田、慈恩寺様でのディキキャンプに参加をさせて頂きました。前日に一関駅前に集合してレンタカーでの移動でしたが、信じられない光景が目の前に広がった瞬間、何も言葉が出てきませんでした。東日本大震災から一年以上が経過しているにも関わらず、何一つ復興出来てない真実に心が張り裂ける思いと怒りさえ覚えました。

無言のまま車が高田松原辺りに差しかかった時、目の前に「奇跡の一本松」が現れたのです。七万本以上あつた松の木が、津波で全て流されてしまいました。そんな中、一本だけ生き残ったあの松の木です。

奇跡の一本松は翠の葉を津波によつて失い、枯れ果てています。しかし、不思議な事に私の目には確かに翠色にキラキラと輝いているかのように映つたのです。「生き残つたのではない、生かされた」確かにそんなお姿でした。

松の葉は何年経とうと、翠色を絶やさない。私達の心中にも色あせることのない仏心があるはずです。あの奇跡の一本松が教えてくれた翠(仏心)のお陰で、生かされている命に感謝を捧げコンサート開始する事が出来ました。

日本の唱歌など花園流御詠歌や涙そうそう「翼をください」「千の風になつて」「ふるさと」など皆様もよくご存知の曲目と共に法話をまじえて約七十分のコンサートが「あと」と言う間に無事終了しました。演奏後、ある老人が私に話して下さいました。「和尚さん、私の二分

私は被災していません。今、生かされている。有ること難い奇跡です。私達一人一人が、本当の意味で「奇跡の一つの命」であることを心から信じなければ、真的復興にはなりません。この度の有り難き一期一會のご縁と、私達が生かされている命に感謝の心を捧げます。



御法衣・莊嚴具・稚児貸衣裳

山田八郎法衣店

〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39-31
電話 (052) 241-1817 FAX (052) 241-1834

「前進」 ゆうたら右足の次い
 左足ゆう出し 左足の次い
 右足ゆう出し そんとうなこたあ
 なんぼう (小さく) こうまい (そのような)
 へじやが この当 (あたりまえ) まい子でも 知つとる
 いびせえことじや (大きいこと) あのことが
 われも (私も) われも (お前も)

ほんまに (本当に) 「前進」 した事ん なるんよの
 ほんまに ほんまにの

前進

方言詩紹介 松尾静明氏

方言詩「わが標準語」より



松尾静明 (まつお・せいめい)

1940年、広島県賀茂郡大和町生まれ。18歳の頃から木下夕爾氏に師事。広島市内の印刷会社に勤務する傍ら、詩、童話、小説、書評などを書いてきた。詩集『丘』で第33回小熊秀雄賞、詩集『都会の畠』で第34回日本詩人クラブ賞を受賞。2001年秋に九冊目の詩集『方言詩 わが標準語』を出版。日本詩人クラブ会員、日本現代詩人会会員、広島県詩人協会副会長、日本中国文化交流協会会員。広島市在住。

当社には各種資格を有したプロスタッフが多数在籍しております。

株式会社 日本石材

お任せ下さい!!

墓地の拡張や新規造成、
 許認可申請から取得まで
 企画・交渉等全て承ります！

《事業内容》

- 墓地・霊園開発事業
- 霊園販売・運営管理サポート事業
- 墓石販売事業

本社: 〒600-8371

京都市下京区大宮通松原下ル西門前町407番地
TEL 075-841-5562 FAX 075-841-5564支店: 京都・札幌・東京・神奈川・名古屋・
大阪・堺・神戸・広島 他全国11営業所

全国各地

優良墓園取り扱い



SUPPORT

日本全国まかせて安心。
 墓所選びからご納骨まで
 当社スタッフがフルサポート！

お問い合わせ・資料請求はお気軽にフリーダイヤルでお電話ください。



0120-50-5563

薪流会 東北震災復興支援活動

平成二十三年度

七月十八日～二十二日

うな丼炊き出し 千食
於／気仙沼市

八月
二・三日

水施餓鬼法要 五名
於／陸前高田市水晶浜
妙心寺派東北教区・臨済宗青年僧の会と共に随喜

十月十六日～二十日

陸前高田、気仙沼市にてボランティア活動 延べ十六名

十一月三十日～十二月二日

薪流村閉村(十一月一日)
利用者 延べ二百五十余名

十二月一日

陸前高田市保育協会へ絵本等
贈呈(大山市 興善寺 林良忠師
寄贈品の委託)



平成23年7月20日／うな丼



平成23年10月18日／清掃ボランティア



平成24年5月12日／
コンサート会場で挨拶する横江桃國名誉会長

五月十一・十三日
村上彩子さんミニ・コンサート
於／陸前高田市仮設集会所
他三方所
百五十人デイキャンプ(十三日)
於／大船渡市仮設集会所
他三方所

主催／臨済宗妙心寺派
臨済宗薪流会

陸前高田市広田仮設団地に
書籍の贈呈(美濃市慧照院宮本
陽子さん寄贈品の委託)

主催／臨済宗妙心寺派
臨済宗薪流会

平成二十四年度

五月十二日

三百五十人デイキャンプ、
「希望の光コンサート」
於／陸前高田市 慈恩寺



平成24年5月13日／大船渡市長洞仮設住宅
ディキャンプ



ポスター

御 法 衣 ・ 莊 嚴 具 調 達
臨済宗各本山御用達

大 黒 屋

株式会社



神 田 法 衣 店

〒604-0001 京都市中京区室町通丸太町下る道場町15番地
電話 京都 (075) 221-3507番(代)
FAX (075) 252-5098番

◎地下鉄 京都駅～烏丸丸太町下車④番出口徒歩3分◎

東日本大震災支援活動会計報告

収 入 13,255,109 円
 支 出 10,319,439 円
 残 高 2,935,670 円

収入	
托鉢所得・送金	3,834,991
活動支援金	6,763,251
参加者カンバ	251,000
薪流村宿泊代	6,000
一般会計より	600,000
24年デイキャンプ 妙心寺負担金	1,799,867
合 計	13,255,109

自 平成23年1月1日
 至 平成24年6月8日

支出	
交通費	1,787,311
食費	701,345
宿泊	701,850
支援物資	341,274
ぜんざい資材食材	276,904
デイキャンプ資材食材	1,090,727
うなぎ資材食材	1,009,567
薪流村経費	172,356
24年デイキャンプ 妙心寺負担金	1,799,867
24年デイキャンプ 薪流会負担金	398,115
事務費	154,906
通信費	437,990
見舞い土産	197,227
義援金合計	1,250,000
合 計	10,319,439



平成23年12月1日
 一関市大東町／薪流村閉村



平成23年8月3日
 水晶浜にて水施餓鬼



平成23年12月1日
 絵本贈呈



平成24年5月13日／ミニコンサート
 於／大船渡市長洞仮設住宅



平成24年5月12日／希望の光コンサート
 於／陸前高田市

石のヒラガ

静岡県経済連指定

有限会社 平賀石材工業所

墓石・仏壇・記念碑・造園資材
 灯籠・建築石材張石工事

本社／〒433-8105 静岡県浜松市北区三方原町701-2
 TEL.053(438)9455 FAX.053(438)9456
 浜松石材センター／〒433-8105 静岡県浜松市北区三方原町701-2
 TEL.053(438)8235 FAX.053(438)8237

浜松営業所／〒433-8103 静岡県浜松市北区根洗町1116
 TEL.053(438)2788 FAX.053(438)2730

浜北支店／〒434-0015 静岡県浜松市浜北区於呂1337-5
 TEL.053(588)7503 FAX.053(588)7096

天竜船明営業所／〒431-3306 静岡県浜松市天竜区船明38-11
 TEL.053(922)2121 FAX.053(922)2122

袋井支店／〒437-0066 静岡県袋井市山科字前田3256-1
 TEL.0538(43)0510 FAX.0538(43)0350

豊川インター支店／〒442-0801 愛知県豊川市上野2丁目48
 TEL.0533(84)7854 FAX.0533(86)1581

佐久間営業所・工場／〒431-3907 静岡県浜松市天竜区佐久間町川合922
 TEL.053(965)1232 FAX.053(965)0921

静岡営業所／〒426-0036 静岡県藤枝市上青島字北一里山560-1
 TEL.054(641)7131 FAX.054(641)7135

裾野支店／〒410-1124 静岡県裾野市水窪34-6
 TEL.055(993)8581 FAX.055(993)9971

お仏壇ギャラリー／〒433-8103 静岡県浜松市北区根洗町1115-2
 TEL.053(414)2010 FAX.053(414)2011

平成二十四年三月七日 京都
 「ホテル日航プリンセス京都」に於いて、
 総裁大隱窟老大師(方広寺)
 顧問岡雲軒老大師(天授院)
 顧問孤雲室老大師(妙興寺)
 顧問圓闇窟老大師(萬寿寺)
 顧問無隱窟老大師(常榮寺)
 ご臨席のもと二十五名の出席にて第二十一回総会を開催いたしました。



開会に当たつて総裁猊下より、「東日本大震災支援活動をはじめとして、全国的に活躍して頂きたい」と挨拶をいただいた後、議長に、上田宗演師(幹事長)を選出し、平成二十三年度事業報告・決算報告監査報告、平成二十四年度事業計画・予算案をそれぞれ審議・承認いただきました。

第一回 総会報告

浜松支部だより

浜松支部では、四月七日、浜松市高町半僧坊別院正福寺に於いて弊会副会長兼浜松支部長安部良道師を導師に花まつり並人形供養を開催致しました。

当日午前中は、虚無僧姿の「らんぽの会」の方々、方広

ました。

高町別院では、東日本大震災追悼慰靈法要として大

悲況一巻で回向、続いて花

まつり法要では神宮寺様ご

詠歌隊と「らんぽの会」の

皆様による尺八の演奏が花

を添え、引き続き人形供養

が執り行われました。



小憩後、大本山方広寺教
學部長巨島善道師(中川寺
住職)を講師としてお迎えし、
お参りされた善男善女と共に
法話を拝聴し、盛会裡に今
年の法要の幕を閉じました。

臨 濟 宗 各 派
御 莊 嚢 製 衫 調 進 所

加 藤 法 衣 店

〒453-0047 名古屋市中村区元中村町1丁目72番地
電 話 052 (471) 1496
FAX 052 (471) 1681

精進料理・慶事・仏事御膳料理

御料理・仕出し

紀 文

岐阜県山県市青波262-1
本 店(代) TEL.(0581) 52-1090
FAX.(0581) 52-3020
岐阜サービスコール ☎ 0120-371605

僧堂紹介

方広僧堂

方広僧堂は、静岡県浜松市北区引佐町奥山に位置する臨済宗方広寺派の専門道場です。

僧堂の開基は、昭和二年（一九

二七）。当時、管長に就任された足利紫山老師のとき、旧開山堂を移築して禅堂とされました。

開基当初から今日に至るまで、朝課後の堂内讃経で大衆が唱和する開山円明大師不衆に曰わく、「わざかに一念を生ぜば即ち真に違ひ。」たが 生滅却つて旋火輪の如し。語を寄よ す、今時学道の者、袈裟下に人身をすることが莫れ。四大仏に成ず、主は是れ誰そ。依然として問著すれば人の知る沒し。な 口だ放逸を將も

平成二年十月に大隱窟老大師が師家となられて以来、室内に参じた雲水は三十余名。



月現在、在錫する雲水は四名と人少ではありますが、日中は鶯の鳴き声と奥山の靈氣に囲まれて、参禪弁道の日々を送っております。

小知客 九拝

大本山妙心寺御用達
臨済宗法衣化具調進所



澤野法衣店

〒615-8238 京都市西京区山田車塚町15-81
電話 京都 (075) 392-6181番
FAX (075) 391-6181

東日本大震災支援活動協力金

平成二十三年六月十四日(平成二十四年六月八日分)

自保院 龍泉寺 多福寺 德藏院 大儀寺 千円
幻住院 桃林寺 觀音寺 大樹寺 真福寺 福高寺 福壽寺 菊水寺 龍福寺 宗榮寺 福宗寺
德藏院 多福寺 大儀寺 千円

中林健道 鈴木光雄
飯沼宗秀 莉谷典昌
和田啓道 大橋宗隆
蟹江慈千 宇都宮亥雲
中嶋孝道 伊藤祖弘
幸田延章 小川哲秀
渡辺貞正 日坂宜祥
林 璞岩 伊藤翠寶
長谷川實弘 今尾宗博
木村俊彦 吉田宏道
和田啓道 福島文隆
高田義雄 今尾宗博
林 宏樹 土岐正觀
田口豊實 久野修道
蟹江慈千 金井孝雄
井村祥隆 久野修道
大雅清光 細川貞頼
鈴木敏雄 近藤幸雄
青山淨潭 中山義彦
日下哲禪 磐田俊道



天龍寺 東福寺 妙心寺 御用達

日本造園技術研究所
～酵母で樹勢回復を～

株式会社 曽根造園

〒603-8487 京都市北区大北山原谷乾町255-6
Tel.075(462)6058 Fax.075(463)5526
Url <http://www.sone-zoen.co.jp>
Email:hogan@mbbox.kyoto-inet.or.jp

平成23年度 会計決算報告

一般会計

収入 5,696,756円
 支出 5,696,756円
 残高 0円

平成23年度 一般会計報告

収入

(単位・円)

項目	予算	決算	比較	備考	前年度決算額
賛助金	600,000	550,000	▲ 50,000	正副総裁・顧問・参与	640,000
会費	600,000	390,000	▲ 210,000	役員・会員	581,000
事業収入	500,000	447,475	▲ 52,525	色紙収益	515,470
広告収入	600,000	580,000	▲ 20,000	会報広告掲載料	660,000
贊助企業	0	0	0		0
雑収入	50,000	299	▲ 49,701	預金利息他	355
繰越金	3,728,982	3,728,982	0		3,111,805
合計	6,078,982	5,696,756	▲ 382,226		5,508,630

支出

(単位・円)

項目	予算	決算	比較	備考	前年度決算額
本部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
浜松支部	50,000	50,000	0	活動費	50,000
事務費	400,000	230,933	▲ 169,067	要覧作成・事務用品他	284,952
通信費	200,000	127,736	▲ 72,264	郵送料・宅配便他	132,030
会議費	200,000	150,842	▲ 49,158	会所費他	165,166
文化部	350,000	241,515	▲ 108,485	研修会事業費	346,363
編集部	900,000	866,172	▲ 33,828	会報編集・発行	609,680
托鉢部	100,000	100,000	0	托鉢事業費	41,457
財務部	0	0	0		0
慶弔費	20,000	30,000	10,000	長保寺弔儀他	20,000
交際費	100,000	80,000	▲ 20,000	中外日報・文化時報広告他	80,000
20周年事業費	500,000	0	▲ 500,000		0
支援活動費	0	500,000	500,000	支援活動費	0
繰越金	3,208,982	3,269,558	60,576	次年度へ繰越	3,728,982
合計	6,078,982	5,696,756	▲ 382,226		5,508,630

特別活動基金 3,503,000円

前年度繰越金	3,503,000
今年度積立金	0
合計	3,503,000

浜松支部会計

収入 175,737円
 支出 175,737円
 残高 0円

収入

項目	金額
一般会計より	50,000
托鉢所得	108,610
繰越金	17,127
合計	175,737

支出

項目	金額
事務費	14,180
通信費	30,085
交通費	7835
歳末助け合い	100,000
次年度へ繰越	23,637
合計	175,737

会計監査報告

平成23年1月1日より平成23年12月31日間の会計について、帳簿等証拠書類を照合致しましたところ、厳正且つ正確に処理されていますことを、認めましたのでここに報告申し上げます。

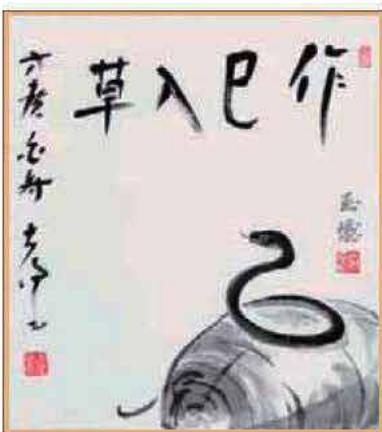
平成24年2月1日

監事 伊藤鑑寶



監事 戸崎知則





平成25年 お正月用色紙見本

お正月用色紙御案内

大隱窟老大師揮毫色紙

(工芸印刷)

解説書・たとう紙付(折込み済)
ご好評頂いております総裁猊下
揮毫の正月用色紙を本年も発売
致します。

一枚 三三〇円 「送料別・税込」
(但し一般は四三〇円)

※寺院の方は五〇枚単位にて御
願い致します。
(但し在居家の方は十枚単位より
受付致します。)

申込み先 (左記の二カ寺にて受け付けます)

大雄寺

〒500-0910
岐阜県加茂郡川辺町下麻生一九九八
TEL 0574-5316755
FAX 0574-5316922

徳生寺

〒434-0041
静岡県浜松市浜北区平口五四八
TEL 053-587-1005
FAX 053-587-1009

申込期日 平成二十四年十月二十日〆切
発送 十月末日頃

編集後記

会報第二号発行に際し、総裁猊下
はじめ玉稿をお寄せ下さいました
各位に篤く御礼申し上げます。

今年三月、旧知のジャズ・ミュージシャン森泰人氏のコンサートの

アンコールで演奏されたのは「東北」という美しい曲でした。

これは仙台市出身のサックス奏者梅津和時氏が東北大震災を受けて「プロジェクトFUKUSHIMA」を立ち上げた中で生まれた曲。

久米大作氏のピアノ、梅津氏のクラリネットの演奏に乗せ、おおたか静流さんが歌う「東北」は同プロジェクトに対する三百円以上の支援金を払うことで音源をダウンロードできます。音楽好きな会員諸師諸兄は是非とも御試聴を。

(晋)

“こころの豊かさ、こころのやすらぎ”が私たちの商品です。



メモリアルアートの大野屋

創業昭和 14 年

本社 03-6863-4111 〒163-0638 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル38F

関西支社 0120-78-7777 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-11-4-1108 大阪駅前第四ビル11F

京都営業所 0120-31-7777 〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町下ル三丁目13-3-203 ホーユウコンフォルト二条城前

北大阪営業所 0120-30-7775 〒562-0027 大阪府箕面市石丸3-2-6

南大阪営業所 0120-61-3388 〒585-0041 大阪府南河内郡千早赤阪村大字水分851

和歌山営業所 0120-10-4484 〒640-1251 和歌山県海草郡野上町国木原577-3

兵庫営業所 0120-70-0177 〒666-0033 兵庫県川西市栄町10-5 パルティ川西403

名古屋支店 0120-44-1888 〒470-0316 愛知県豊田市千鳥町梨ノ木258

名古屋支店・星が丘センター 0120-04-0874 〒464-0808 愛知県名古屋市千種区星が丘山手501

新流会のホームページができました。
ぜひご覧ください。
<http://www.shinryukai.jp/>